

有機野菜栽培における難防除害虫対策

要約

キスジノミハムシの防除技術の確立と普及

UVカットフィルムと0.6mm目の防虫ネットを組合せ、キスジノミハムシの発生を抑制できることを現地実証で明らかにし、有機栽培等の非結球アブラナ科葉菜類の生産施設で普及をすすめた結果、R2～3年度の2カ年で管内の57aの施設に導入された。

ダイコンサルハムシの防除技術の確立と普及

ダイコンサルハムシの施設内での越冬密度を下げるための技術を実証圃で確立。技術の普及が進みつつある。

現状(背景)と課題

奈良県東部地域では、ハウスを利用した軟弱野菜の有機栽培が盛んに行われている。しかし、軟弱野菜の栽培では害虫被害によるロスが大きく、特に非結球アブラナ科葉菜類のキスジノミハムシ(以下、キスジ)やダイコンサルハムシ(以下、サルハムシ)の被害が深刻になっている。収穫期の平均被害株率：46%



目標 (R1 → R4)

- キスジの防除技術の普及面積
45a → 150a
- サルハムシの防除技術の普及面積
0a → 25a

活動内容

<実証圃の設置> キスジの発生・被害が見られたほ場を対象に、実証圃を2カ所設置。0.6mm目合い防虫ネット・UVカットフィルムの侵入阻害効果の確認を行った。また、サルハムシの発生が見られるほ場に、実証圃を2カ所設置し適時調査を行った。おとり作物と越冬場所の設置によるサルハムシの収集・持ち出し方法の検討を行った。

<検討会の開催>

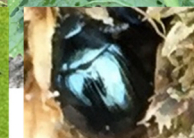
有機農業経営者の集会にて、両害虫の防除対策について検討会を実施した。

成果

- | | |
|-------------------|----------------------|
| キスジ防除技術の確立と普及面積 | 45a (R2)、57a (2ヶ年累計) |
| サルハムシ防除技術の確立と普及面積 | 0a (R2)、技術の情報提供 |



UVカットフィルム+防虫ネット実証



キスジノミハムシ ダイコンサルハムシ

害虫と被害の様子



サルハムシ越冬場所の設置



ハウスサイドで越冬する成虫

東部農林振興事務所農業振興課
担当：中野・吉村

普及活動のポイント

<実証圃の設置>

有機栽培産地における中心的な経営体で実証をおこない、その結果の周知を図るとともに、新規就農者への情報提供に取り組んだ。

<検討会の開催>

検討会では、実証圃での防除技術の効果の確認などを通じ、技術の実践をする経営者と知恵を出し合うことで防除対策技術の改良や新規就農者への普及を進めた。

対象の変化

<実証圃の設置>

- ・実際に技術を実証することで、経営者自身がその効果を実感し、技術の改善・普及へとつながった。

<検討会の開催>

- ・難防除害虫に対する情報交換や、改善点の意見交換などにより、技術のブラッシュアップや普及につながった。

対象者からのコメント

<実証圃の設置>

- ・実際に技術を実証することで、その効果を実感できた。

<検討会の開催>

- ・難防除害虫に対する情報交換や、改善点の意見交換などは自分の経営改善の参考となった。

これからの活動ビジョン

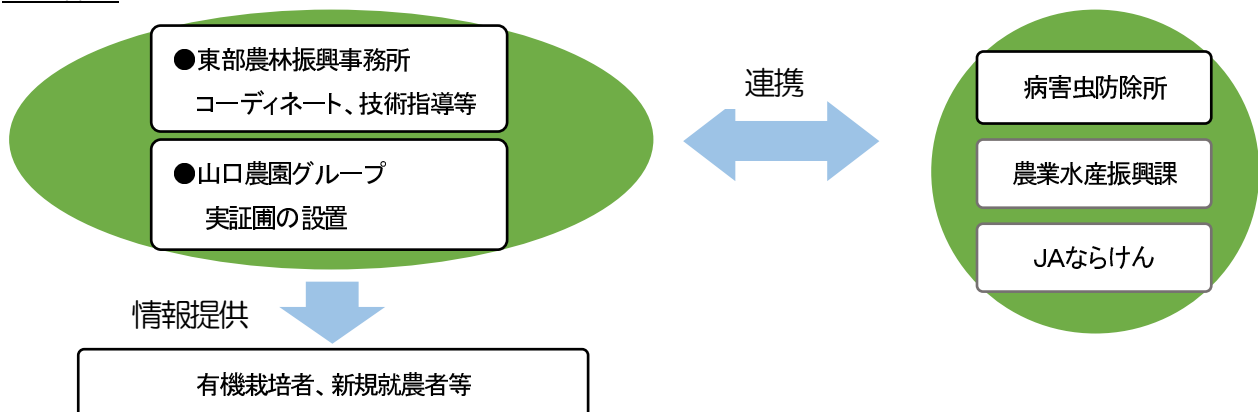
<実証圃の設置>

- ・キスジに対する対策技術は、希望者の圃場で実証をすることで、経営者自身がその効果を実感し、技術の普及へとつなげる。

<検討会の開催>

- ・難防除害虫に対する情報提供は適宜行い、今後の普及につなげる。

活動体制



用語解説

UV カットフィルム：波長 380nm 以下の光（紫外線）について透過を抑制するフィルムの総称。主に虫害、病害に対する予防効果を期待して使用される。

非結球アブラナ科葉菜類：ここでは、キャベツやハクサイのように結球しないアブラナ科の野菜（コマツナやミズナなど）をさす。